

野間池 (のまいけ)



別名を日内山池ひうちざんいけという野間池は、さぬき市の旧長尾町、寒川町、志度町に接し、かんがい区域の大部分は、鴨部地区と寒川町神前地区で、一部に造田乙井地区を含んでいます。貯水量は県内で51番目に大きいため池であります。

野間池は、西側の日内山と東側の熊高山との間の平坦地に、南面に近隣地から築堤材を運搬し築造された溜池で、日内山池と呼ばれる由来にもなっています。

築造の歴史は定かではありませんが、文献では「翁おう姫ひめ夜話よわ」の寒川郡編の陂池ひのちの項に、貞享3年(1686年)当時既に王田渡池や中王田池とともに野間池が存在していた、と記されています。

日内山靈芝寺の建立時の築造と古老は伝えており、故事をもつ池でもあります。池に向かって地藏堂があり、その横には「大乘妙典だいじょうみょうてん」と彫った経文碑があります。明和元年(1764年)建立で、かつては廻国六十六部かいこくろくじゅうろくぶの巡礼も係わっていたと伝えられています。

また、池西側の日内山は霊域で、高松藩主松平家の第二代頼常公と、第九代頼恕公の墓所があります。更に日内山奥ノ院は、祖師堂として弘法大師ゆかりの求聞持修行の古跡であることから求聞持堂が建立されています。

近年では、平成14年度(2002年度)に国営農地防災事業で全面改修を行い、地域の豊かな田園風景に欠かせないものとなっています。



背後地の田園風景



野間池と西側の日内山